

## 会 議 記 録

1. 用 務 宇都宮地域医療構想調整会議
2. 日 時 平成 30 (2018) 年 7 月 26 日 (木) 18:30~20:00
3. 場 所 本館 6 階大会議室 2
4. 参加者 別添資料のとおり
5. 結 果 議事前進行：医療政策課 谷田部課長補佐  
議長：宇都宮市医師会 片山会長
- (1) 議題
- ① 地域医療構想調整会議等の進め方について (説明：松島係長)
  - ② 宇都宮構想区域の医療提供体制について (説明：渡辺主幹)
  - ③ 地域医療介護総合確保基金について (説明：黒子主査)
- (2) 質疑等
- ① 地域医療構想調整会議等の進め方について  
**長谷川委員** 医療機関に対する意向調査票について、診療報酬の算定状況の記載方法であるが、例えば NHO 栃木医療センターには HCU があり、済生会宇都宮病院には ICU があるが、その他の欄に記載すれば良いのか。  
**事務局** その他の欄に記載していただきたい。記載要領等をお渡しして、分かりやすくしたい。  
**長谷川委員** 感染症病床は記載しなくて良いのか。  
**事務局** 一般及び療養病床を対象とするため、記載しなくて良い。  
**藤井委員** 地域医療構想アドバイザーについては、どのような考えか。  
**事務局** 地域医療構想アドバイザーについては、国が養成するので、都道府県から有識者を国に推薦して欲しいという通知が国から発出された。地域医療構想の達成に向けて、地域全体のアドバイザーあるいは調整会議のアドバイザーということで、主に調整会議や地域全体のデータ分析等への助言を期待されている。都道府県が各都道府県内で活動している方を国に推薦して、国が研修やデータ提供を行い支援することとされている。国の通知によると、人選については、都道府県医師会、大学、病院協会等と協議を行った上で国に推薦するということが示されており、現在協議中である。  
**宮崎委員** 地域医療介護総合確保基金について、平成 30 年度以降の地域医療介護総合確保基金の配分に当たっては、具体的対応方針のとりまとめの進捗状況を考慮するとされているが、きちんとやっている都道府県にはきちんと払うという国の意図と思うが、県としては積極的に活用していくという考え方が教えていただきたい。  
**事務局** 地域医療介護総合確保基金については、地域医療構想実現のための病床機能の分化・連携、在宅医療の推進、人材育成等のように使い道が定められており、

都道府県が作成した計画（案）を国が査定するという手続きである。査定の際に、地域医療構想調整会議においてしっかり議論されているかどうかはこれからは見られると考えている。見られるというのは、2025年を見据えた各医療機関が果たそうとする役割や2025年に持つと思われる病床数を各医療機関がしっかり表明して、互いに承認するという議論が調整会議においてきちんと進んでいるかという進捗管理をされると考えており、しっかり進めていきたいと考えている。

**後藤代理)** 医療機関に対する意向調査票について、診療報酬の算定状況は平成30年7月1日現在の調査をされるとのことであるが、診療報酬の届出は10月1日までであり、7月に調査を行っても基本的には4月と変わらないはずである。10月1日現在の調査を行った方が、診療報酬の変化が見えるのでよろしいのではないかと。

**事務局)** 診療報酬が改定となり、医療機関の対応の変化を把握できれば今後の議論に役立つと思い計画したところであるが、10月1日現在の調査であると今年度予定している議論が後にずれてしまうことも心配しているところである。例えば、調査時点で変更予定であれば回答していただく方法が良いか等の御意見もいただければありがたい。

**後藤代理)** 今回の改定は3か月の実績を基にして入院料を改定するというものであり、4月～6月の実績を基に変える医療機関があれば良いが、5月～7月または6月～8月の実績を基に変えようとなると、8月から9月に届出をするという医療機関が基本的な考え方と思うので、7月1日現在で届出をする医療機関は早くから確定をしているところであり、迷っている医療機関は後に届出をすると思う。

**事務局)** 調査時期はなるべく後の方が良いのではないかとすることは認識できたので、スケジュール等と併せて検討させていただきたい。

## ② 宇都宮構想区域の医療提供体制について

**小林委員)** 必要病床数を算出する時に、季節変動について県はどのように考えているか。

**事務局)** 必要病床数は1年間の患者数を用いて全国統一の方法で算出されており、年間の平均的な数値との認識である。必要病床数に合わせた病床数だけであると、不足しがちな時期はあるかもしれない。

**小林委員)** 大きな問題になるのではないかと感じている。

**藤井委員)** 病床機能報告について、回復期が不足しているとのことであるが、有床診療所のように病床数が少ない医療機関は、ほとんど全て急性期として報告しているのではないかと。入院した時は急性期であるが、回復期に移行するように、病床数の少ない医療機関ほどいろいろな階層があるのではないかと。病床機能報告の病床単位になると急性期になってしまうが、実質的には回復期が不足していることはないかもしれない。

また、人口については、宇都宮市周辺は減少するが、宇都宮市はそれほど減少しないかもしれない、宇都宮市内の人口構成も変動するかもしれない、どのように考えるか。家族の単位が減ることも考えられ、単に高齢化するだけではなく、在宅医療等には難しさが出てくるのではないかと。住民が将来どのように生活していきたいと希望しているかアンケート調査もない状況で、調整会議委員のみで協議

して良いのか少し心配である。

**事務局)** 確かに難しい問題であり、多面的な分析も必要である。また、地域ごとに人口の変動に差があるという分析もあるが、加味することは難しい状況と考えている。

**片山委員)** 小児医療の救急については、県南地域の医療機関にたよっていることは事実であるが、宇都宮地域で解決するというのであれば、助成を受けて小児救急センターでも設置しないと解決できない。宇都宮市には県立総合病院も市立病院もないため、民間病院に頑張ってもらっているという状況である。

**事務局)** 三次救急や希少疾患に対する医療機能のように二次医療圏を越えた議論を含めた地域医療構想となっているので、全てを地域内で完結させるという議論にはならないと認識している。

また、圏域を越えた流入を踏まえて、他地域の患者の受け入れも含めて、各医療機関の現在の医療機能を基に考えていければという認識である。

**沼尾(利)委員)** 地域包括ケア病棟について、先日地域包括ケア病棟の協会長に話を聞く機会があった。多目的、多機能、急性期からのポストアキュート等のいろいろな対応が可能ということで、当院は現在 60 床で運用している。県内では、県北の菅間記念病院が最も多いが、他県の方からは、栃木県の人口の 4 分の 1 の規模の宇都宮市にしては少ないという話も聞く。上手に運用すれば、患者のニーズもあるし、現在の 60 床を 80 床程度に増やせるかもしれない。ただ、病院全体のバランスを考えた上でなければならない。当院は以前から急性期と慢性期に対応しており、数年前からは急性期と慢性期の橋渡しとして回復期に対応していたことから、スタッフも従来からの延長であるため今のところ抵抗はない。攻めのダウンサイジング、場合によってはスマートサイジングと言う方もいるが、ニーズにしっかり対応していきたい。

③ 地域医療介護総合確保基金について

質疑なし

④ その他

**事務局)** 今後の会議日程及び委員改選について連絡

**栃木県医療介護総合確保推進協議会太田会長)** 必要病床数の算定方法は本当に正しかったのか。最も大きな問題は回復期の問題であり、本当に回復期は不足しているのか。地域包括ケア病棟については、急性期と回復期のどちらに区分されるか分からない。リハビリ施設を所有する病院に 2 年前にアンケートを行った結果では、患者は待つことなく入院できており、今のところ回復期は足りているのではないか。そのような状況もあり、必要病床数は一人歩きしているように思う。また、必要病床数については、都市型と地方型があり、考慮していかなければならない。

季節変動については、ある医療圏は 100 床近い差の影響があると聞いた。そのような状況では、必要病床数をどこに設定すれば良いか分からない。

今後医療機関がどこに基本を置くか考えるためには、平均在院日数と病床稼働率が重要である。病床稼働率が低ければ、病床機能の転換を考えなければならない

い。

また、病床機能報告の結果については、制度が始まった頃の2014年と現在との比較も行う必要がある。高度急性期が減少し、地域包括ケア病棟が増加していることから回復期が増加しているが、地域包括ケア病棟は急性期と回復期のどちらに区分されるか分析が必要である。

調整会議は、医療、介護、行政等の分野から構成されているので、病床に関する協議だけでなく、介護分野の検証や在宅医療の患者が在宅でもきちんとリハビリを受けられているのか等の検証も必要ではないか。また、地域包括支援センターの地域区分についても人口の割合のみで決めて良いのか検討が必要ではないか。地域包括ケアシステムを進めるためには、病床機能も重要であり、介護も重要である。医療関係者のみではなく、介護関係者や行政関係の委員ももっと発言していただいた方が良いのではないか。